

音

女子版

登場人物 女1／堂上丸子

女2／蓮華穂香

女3／水野美希

女4／不破由紀子

女5／反町奈々子

おばさん／欄橋裕子 (納品業者)

先生／柴響子

廊下。

先生と対峙している生徒達。

堂上 先生、

先生 はい。

堂上 先生はおかしいと思いませんか？普段、授業を

先生 何が？

堂上 この学校は、男女共学というのはご存知ですよ

先生 はい。

蓮華 だったら！

堂上、蓮華を抑える。

堂上 おかしいですわよね、男女共学というのは何を

に笑い、ともに泣き、恋をする。それが男女共学

先生 …え？

反町 違います。

堂上 それは違うという話です！

先生 はあ…。

蓮華 男女がともに学ぶと書いて、男女共学です！

先生 はい。

堂上 じゃあ、どうして女子ばかりなんですか？

先生 …え？

堂上 だから、どうして男子居ないんですか？

先生 あ、居ません？

堂上 居ませんよ。え、居ないでしょ？

蓮華 居ないよ居ない、居る訳ない。

堂上 居ませんよ。

先生 ああ…。

堂上 ああ、じゃなくて、どういう事ですか？どこかに隔離されてるんですか、男子。

先生 …は？

堂上 これは例えのお話です。それくらい男子に遭わないって事です。

蓮華 私らもう二年なんです。今まで一回も、男子に会った事ないです。

先生 そうなんですか。

堂上 どういう事ですか、この二年間たまたま男子の入学が無かっただけとも言えますか？

先生 うーん…。

水野、やって来る。

反町 風紀委員たわ！

蓮華 学校のため…。

堂上 もともとこの学校は、男子校だったんですよ？そのウチらが入学する前の年は。

先生 はあ。

堂上 てことは、ウチらが一年の時は、二年三年は男子ばかりじゃありませんか普通？

先生 …は？

堂上 だから二年三年に男子が一人も居ないのはおかしいじゃないですか！ウチんらが一年の時、その時

の二年三年はどー行っちゃった？おかしいなあと思ってもう一年半経っちゃったじゃないですか、どう

してくれるんですかウチらの高校生生活。もうホント無駄な事に気遣って、半分来ちゃったじゃないです

か。どうしてくれるんですか！

先生 いや…、うーん、でもほら、四人行ったらほとんど男子ですよ。

堂上 それは「男子大生」でしょ？所詮男子大生でしょ？ウチらは今この時を言っているんです。「男子高生」と一緒に過ごせる時間は人生の中でたった三年間しかない。その貴重な三年間を無駄に過ごせと、

そう言うんですか先生は？

反町 「君に届け」読んでないんですか？

先生 ……え？

堂上 これは別にウチらが「君に届け」に憧れてるって言うてる訳じゃないんで誤解しないで下さいね。

ウチらが問題にしているのはこの学校の事なんです。この学校の隠へい体質を問題視してるんです我々は。

蓮華 いじめとか天下りを公表しろって言うてるんじゃないんです我々は。

反町 男子の居場所を教えてくれと言っているんです我々は。

先生 居場所と言われても、

堂上 別にウチらが会いたいって訳じゃないんです！未来の子供達、新一年の為に言っているんです我々は、

は、どうなんですか先生。

先生 いや、え…！

水野 二年B組下ノウエ、蓮華、反町。もう下校の時間ですわよ。

蓮華 クソ…！

堂上 だって男女共学なんですよね？このままだと女子校だと思ひ込んでる生徒、たくさん居ますわよ。

先生 (苦笑して) ああ…！

堂上 え、何笑つとんの？え、何笑つとんの？

先生 あ、すいません。

堂上 だってこれじゃ何の為にこの学校に入ったかわかんないですよウチら。

先生 え？

堂上 そりゃあわかってますよ！学生の本分は勉強だつて事くらいわかってますよ。でも男子居ると居

ないのと同じや全然そのモチベーションが違いますからね。

先生 はあ…！

堂上 だからホント、良かったなあとは思ってるんですよ男子居なくて。ホント男子なんか居たらもう面

面倒臭いですからね。もう勉強に支障が出ますから、面倒臭くて。

蓮華 面倒臭いよ、男子居ると急に色気つく女とか居るからね。

堂上 でしょお？だから良かったなあとは思ってるんですよ。

先生 ……ん？

堂上 どうしてくれるんですか！

反町 どうしてくれるんですか！

蓮華 どうしてくれるんですか！

先生 ……なんで今頃言うんですか？

堂上 ……は？

先生 なんで今頃言うのかなって…！

堂上 なんで今頃言うのかなんて言う普通？

先生 だって入学した時点でわかりましたよね？

堂上 もう二年も一学期ですよ。

先生 はい。

堂上 あと半年で、卒業なんですよ、唯一残った三年の男子は…あと半年で居なくなっちゃうんですよ、

こりや言つとかないと気が済まないって話ですよ。

先生 ン、ごめんなさい。どういう事？男子生徒が、居なくて良かったと思ってるんですよね？

堂上 そうですよ。だって男子の先輩がうじゃうじゃいると思つてやってきてるからねこっちは。

蓮華 危ないよ。

堂上 危ないよねえ？

蓮華 うん。

先生 じゃあ良かったじゃないですか。

堂上 ……ん結果的にはね！でも結果ですからね。結果良ければ全てイイって訳でもないですからねこれ

ばかりは。だってこれ詐欺みたいなもんですよ。

蓮華 詐欺…？

堂上 だって詐欺でしょう？男子校が今年から男女共学になりますって言ったら崖っぷちの女子は飛び付く

よそりや。ウチらは違いますよ！ウチらは全然そんな崖っぷちじゃねえし。

反町 目血走つてねえし。

先生 はあ。

堂上 だからそれを利用して入学者増やそうとしたんでしょ？違います？

先生 いや、どうなんですかねえ？

堂上 どうなんですかねえじゃないかって、それが極限状態の女子的発想だつて言ってるの。

先生 はあ…！

堂上 でも実際入学してみたら男子一人も居ないなんて、それは詐欺でしょうかねえ？

蓮華 ああ、うん。

先生 あのお。

堂上 はい。

先生 でも会ったことありますよ私。

堂上 …え、男子に？
先生 はい。

問

生徒達 え、え？え？いつ？！

先生 いや、いつって言うか…、

反町 は？え、何組？何年？

先生 いや、何年何組かはわからないですけど…、

反町 なんてわかんないの？先生でしょあんな？

先生 ちよつと皆さん、声…、

堂上 どこ？どこで見たの？

先生 いや廊下ですれ違つて…、

水野 え、え、何階の廊下ですか？

先生 いや、もう覚えてないけど…、

蓮華 (水野に) なんであなたが入つて来るの？

水野 どんな感じなんですか？

堂上 え、何回くらい会つたことあるんですか？

先生 いや、まあ、結構…。

反町 結構つてどれくらいですか！

蓮華 ちよつと落ち着こうよみんな

水野 どんな感じなんですか！

反町 結構つてどれくらいですか…。

蓮華 みんな一日深呼吸しよ！

堂上 しないよ！

蓮華 しない？よし！

水野 え、じゃあ居るつて事ですか？この学校にも男子。

先生 まあ、そういう事だと思ふんですけどねえ

堂上 え、じゃあなんで会わないんですか、ウチんらは。

先生 うーん…、

堂上 どういう事ですか？何階の廊下に出没するんですかその男子は。

先生 そんな、熊じゃないんで…。

堂上 熊みたいな男子なんですか？

水野 そういうの好き！

先生 あ、いや…、

蓮華 何時限目とか覚えてないんですか？

先生 いや、割と普通に歩いてますから、ええ。

反町 ふぎけんじゃねえぞこの野郎！(殴りかかろうとする) 自ら一回も見たことないですよ！見たこと

ないんですよ！見たことない人達に向かつて、割と普通にー？バカにすんのもいい加減になさい！

先生 えー？！

堂上 ちよおいかん、この子もうダメだ。

蓮華 うん、ちよお座りやあ。

反町 だつて…、だつてバカにしてんじやないの…。

反町、体操座り。

堂上 それは何ですか？かたまつて歩いてるんですか？

先生 …え？

水野 どんな感じなんですか？

堂上 だから、複数居るんですか？

先生 いや…、

水野 深いですか？

先生 何が？

水野 毛。

蓮華 その時は何人居たんですか？

先生 まあ、一人、かなあ。

蓮華 一人？

反町 匂いは？

堂上 かなあ、つて何？なんでそんな曖昧？ねえ、ホントに見たんですか？

先生 見ましたよ。見たのは間違いないですから…、

反町 どんな匂いがするの！

堂上 じゃあなんで一回も見ないんですかウチんらは！

先生 皆さんは会いたいですか男子生徒に？

堂上 私らは別にいいんですよ！

蓮華 うん、ウチらはほんと、男子なんて、ええ。

水野 風紀が乱れますからね、男子居ると。

反町 どつかに居るんだと思うだけでもう、汚らわしいわよねー。

生徒達 ねえー。

先生 ……あのお、皆さんね、あんまり大声で騒いでると、怒られちゃいますよ、他の先生に。

堂上 この壁の向こうには何があるんですか？

先生 え？

皆、壁の方を見る。

堂上 どうしてこんなに高いんですかこの壁は。

蓮華 まるで刑務所じゃない。

先生 ああ…。

堂上 なんの為に存在するんですかこの壁は。

先生 うーん、私じゃあ良く分からないんで、校長に直接聞いて貰った方が、

堂上 校長様に直接なんか聞ける訳ないでしょうが！

蓮華 先生が聞いてよ！先生が！

先生 私が？

堂上 バカー！

水野 先生が自主的に聞いてよね！

反町 私らは関係ないですからね！

堂上 バカー！

先生 ……。

水野 校長とか言ってるんじゃないわねえよ…。

堂上 バカー！

蓮華 何言っただて…。

反町 何言っただ。

堂上 バカー！

先生 イヤ、私学校の事はホント…。

蓮華 みんなちよつと落ちて着こうか。先生の言ってるのはたった一人だけの男子かもしれない。

堂上 そうか、そうだね。

水野 一年に男子が入ったっていう話は聞いてないよ。

蓮華 なんにしろ、今突っ込んでも大死にだから。

堂上 うん。そんなとこの馬の骨の男子かもわからないギリギリの男子に一喜一憂してもしょうが無い。

蓮華 そうだね。

水野 なんでもいいって訳じゃないしウチらも。

蓮華 うん。

反町 もうなんでもええて男なら。

蓮華 まあね。

水野 なんでもいいか。

反町 気取つとる場合じゃねえし。

堂上 じゃあまあ見た目はおいとこう。

蓮華 とりあえずね。

女子達 うん。

先生 あのお、皆さん、どうしてそんなに焦ってらっしゃるの？皆さんまだ高校生ですよ？

女子達 ……。

先生 ン？

堂上 先生は、彼氏居ますか？

先生 ……え？

堂上 ……。

先生 そりゃあ、まあ、

水野 居ない居ない、今の見たらわかる、あれは居ない。

蓮華 居ないね。

水野 うん。

先生 なんですか皆さん、先生に向かって…。

堂上 私達は、三〇越えても彼氏出来ない先生のような女にはなりたくないんです。

先生 ちよつと、先生だつて、たまたま居ないだけで、

反町 じゃあいつまで居たんですか？

先生 うんと…。

水野 ないない、付き合った事ない。

蓮華 ないね。

先生 わたくしもう帰りますね。

水野 帰れませんよ。

先生 でも、先生ですから。

堂上 私達は、今なんだと思ってるんですか？

先生 え？

堂上 女子高生なのですよ。

先生 はい。

堂上 女子高生といふこの最高の状態を、無駄に老いさせたくない、それだけなんです。

先生 はあ。

堂上 この最高の状態でもと会わなかったら、この先私達、先生みたいになっちゃうの嫌！

反町 嫌よ私！

先生 あのね…、

蓮華 男子はどこに居るんですか！

先生 皆さん、なんか怖いですわ。鬼畜のようですよ…。

水野 先生が大人しく出せばいいんですよ、男子。

先生 …だから、私もどこに居るのやらわからないから、その、うん。

と、納品業者のおばさんが下手からやってきた。

段ボール箱を二つ持っている。

おばさん あのお。

先生 あ、どうも…、(苦勞様です。

おばさん 三年の、古川先生のクラスは、どこですかね？

先生 あ、古川先生…えーっと、少々お待ち下さいませるか。

先生、下手に行こうとする。

堂上 どこ行くんですか？

先生 あ、ちよつと職員室…、

堂上 職員室なんか行きませんよ。

先生 あでも、古川先生の…、

蓮華 なんにも知らないんですね、先生。

堂上 先生は、ちよくちよく会うんですよ？

先生 まあ、ちよくちよくつていうか、まあ、はい。

堂上 ちよつと一緒に歩きましょうよ。

先生 え、どこを？

堂上 校舎内ですよ。

先生 いやでも…、もうこの時間は、居ないと思いますけど…。

生徒達、先生を睨みつけている。

不破 やってくる。

不破 崖つぶち女子に限ってぎやあぎやあわめき散らす、喉潰しますわよ。

堂上 あなた、誰？

反町 転校生の不破さんよ。名古屋の学校からやってらしたのよ。

蓮華 これだから都会の学校の奴は嫌いなものよ。

不破 あんたらが男子に会えない理由を教えてあげる。音痴だからよ。

堂上 なんですって？

不破 男つて奴は歌が上手い女に惚れる。

反町 歌？

不破 私はこの学校に、合唱部を作る。

蓮華 合唱部？

不破 あんたらみんな、入んな。

先生 あ、それはいいんじゃないですか？ねえ？みんな合唱部作りなよ。

水野 ねえあなた、合唱部に入ればモテるの？私らの、いやこの子たちの生きる指針は全てそれよ。どつ、モテるの？

蓮華 確かに合唱部はモテるかもしれない…、授業中とか放課後は大人しくせに合唱コンクールになる

ととんでもねえでけえ声で歌う中山つて女が居た。

反町 歌が上手くなつたところで寄つて来る男子が居ないじゃないここには。

不破 居るじゃないの、この向こうに(窓の向こうを見ろ)。

水野 あ、あなたは壁の向こうに向かつて歌う気？それは無茶よ。

不破 私は合唱部なのよ、どこに向かって歌おうが勝手にしよう。

水野 そんな事したら校長にもものすごく怒られる。最悪の場合退学よ。

堂上 なんて言うこの壁の向こうには男子がうじゃうじゃ居るのね！

反町 やっぱり！やっぱりよ！！

水野 違う、壁の向こうの事は考えちゃいけない事になってるのよ校則で。

堂上 なにそれ変な校則！

蓮華 風紀委員は知ってるの？この向こうに何かあるか？

水野 知ってる訳ないでしょ。

不破 確かめてみようじゃない、この壁に歌ってさ。

水野 ……どうなっても知らないからね。

不破 大丈夫よ、私には今、先生がついてるんだから。

先生 はあ？！

おぼさん あのお？

先生 あ、すいません、行きましようか…。

不破 ねえみんな、男女共学というのは、男子がいつも当り前に目の前に居るんですよ。そこに居る女

子は毎日どんな気分だと思おう？

蓮華 男子に囲まれた女子なんて、いちいち可愛い仕事とか知ってそう…。

反町 勉強じゃあわたくし達に勝てないから、色気で勝負しようって魂胆なのよ。

蓮華 なによ色気って…、休み時間になると寄ってたかってチャホヤされてさ、休み時間なんだから休め

よ中山！

不破 この壁の向こうには沢山のそういう中山みたいな女子が居る。そいつらに聞かせてやろうじゃない

か私らの合唱をさ。

堂上 あなたはそんな当り前の青春を、ウチんらの合唱で消せると本気で思ってるの？

不破 例え一人一人の力は弱くても、みんなで力を合わせればさっさと勝てる！

生徒達 ……！

不破 あんたらこのままでいいの？中山だって私らと同じ高校生よ。似たような時に似たような土地に生

まれ、食い物も変わらなければ背格好だっけそう変わらんでしょう？なのになんなんこの差は。あんた

ら悔しくないの？男子に、ちやほやされたくないの！！

堂上 ……されたいです…今まで、なんとか楽しんでちやほやされようと思っただけど、汗水垂らしてまで

ちやほやされたくないって思っただけど、…今は、なんとでもされたいです！

先生 (指を立て) シー。

蓮華 ……私も、されたい！されたいよおー！されたい…。(泣きだす)

先生 ねえ「されたい」だけだと、なんか変な意味にとられちゃう可能性もあるからさ。

反町 私だって、私だってこのまま高校生を終わらせたくないです。だから、されたいです！

先生 すいませんね、もうちょっとだけ待ってて貰ってもいいですか？

おぼさん はあ…。

水野 本気？私らはもう半分で卒業なのよ、今まで我慢してやってきて、いいの？こんなところで卒業を

諦めても？リスクが高過ぎるわ。

不破 水野さん、あなたはなんの為にこの学校に入ったの、卒業する為に入ったんじゃないでしょ？

水野 ……。

不破 怖いなら辞めなさい、だけど邪魔はしないでちょうだい。

蓮華 みいちゃん！無事に卒業すること、高校で男子にちやほやされるって事は、同じくらい価値のある

事なんだと私は思うよ。

水野 れん…。

蓮華 思い出して！週一で美容院通うために毎朝続けた新聞配達、あの時の汗は、本物だったでしょ？

水野 ……。

不破 どうする水野さん？私はあなたに、私らの「ミ」になって貰いたい。

先生 あ、頭文字？ねえ、頭文字？

水野 ……されたい、私もされたい。されたいです！

先生 うん、だからね、

生徒達 されたいです！

不破 よおし、あんたらの気持ちは良くわかったわ。じゃあ私はこれから、あんた達を叩く。

先生 は？

不破 いいわね、堂上さん。

堂上 はい！

不破 私はあんたの名前が気に入ったわ。歯を食いしばんなさい！

先生 名前？ねえ、名前が？

堂上、歯を食いしばる。

それを「ぱー」で叩く不破。

先生 わ、わ…。

不破 次、蓮華さん！

蓮華 はい！

不破 頼んだわよ！

蓮華 はい！

叩く。

先生 ちよつと…

不破 水野さん！

水野 はい！

不破 あなたは風紀委員よ、いいのね？

水野 …こんなバツジ、こらうしてやる！

水野 バツジを外してポケットにしまおう。

不破 叩く。

先生 名前よう皆さん名前で選ばれたんですよ…。

不破 反町さん！

反町 はい！

叩く。

先生もついでに叩く不破。

先生 痛ー！？

不破 いい？私だつて痛いのよ！この痛みを忘れなさんな！

生徒達 ふあい！

屋上。

椅子が並べて置いてある。

おぼさん (楽譜を見ながら) ヘルマン・ネツケ、クシコスポスト。

先生 それを合唱するつて言ってるんですけどね…、大丈夫かなあ、勝手に屋上にまで上がっちゃつて。

堂上 ねえ不破さん、クシコスポストつて何かものすくやらしい歌なんじゃないでしょうか。こんな歌うたつて誰かに盗撮されても知らないわよ。

おぼさん 「クシコスポスト」口ずさむ。

反町 運動会たわ…。

水野 全然やらしくない…。やらしいとははるか遠い位置にあるものね。

堂上 小学校の、徒競争ね…。

蓮華 …あの頃はこんな高校生活を送るなんて思いもしなかった…。

反町 男子がたくさん居ました。

水野 好きな子にいじめられてさ。

蓮華 今思うとなんて勿体ない事してたんだらうつて思うよ。

不破 大きくなつたらアイドルになれるつて本気で思つてたの私。

反町 神社の鳥居に抱きついて押し倒したりさ、

蓮華 そんな事はしなかったけどね。

反町 やつてることは今と変わらないんだもん。

堂上 今もやつてるの？

反町 気がつくどね。

堂上 ウチらは身体だけが大きくなって、世界はどんどん狭くなって行く。

先生 音楽やつてたんですか？

おぼさん 一時、先生を目標してたんです、音楽の。

先生 だから納品業者には？

おぼさん これは家業なんですけどね。

先生 ああ…。

不破 私らは個々の力で挑んでも、男子は振り向いてくれない。

水野 そんな事はわかつてますよ、どうしたらいい？

不破 合唱なら、一人の力が何倍にも膨れ上がる方法を知っている。

反町 なんですかそれは？

不破 我々の作戦とは、ドレミファソラシ、七つの音を七人で分担し、一人ひとりの負担を減らすとともに、一つの音に集中することで個々の力を最大限にまで引き上げる。一人一曲マスターしている時間は

私らにはない、七人で一曲マスターするのよ。

蓮華 七人…

反町 ここには、五人しか居ませんわ。

不破 あと二人、仲間が必要ね。

堂上 あては？あてはあるの？

不破 あてはある。

生徒達 え？

不破 先生を見る。

先生 …え？

不破 先生、お名前は？

先生 …柴、ですけど…

皆 おおー！

先生 イヤですよ。

皆 …。

先生 私、先生ですから。

堂上 あとは「ラ」ね。

先生 こらこら。

反町 どこかにラスカルさんとか居ないかしら。

先生 ラスカルさんなんか居る訳ないでしょ。

水野 みなさん、ごめんなさい…。

蓮華 みいちゃん？

水野 私やっぱり帰る。

蓮華 え？

水野 だって「ミ」のつく名前なんて、幾らでもあるでしょ。A組の三浦さん、あの方でいいじゃない。

反町 あなた何よ、ここまで来て。

水野 みんなは校長に会った事無いからよ…、ものすげー怖いよ。噂じゃ目が赤く光るって話よ。

反町 え…。

蓮華 …私は高校生なのよ、殺される訳じゃない。

水野 一生癒えない傷を負う事だってあるの。

反町 何をされるって言うの…。

水野 勝手に屋上登ったりなんかして、これだって充分校則違反だからね。

不破 先生が連れて来たって言えば大丈夫よ。

先生 コラコラ！

堂上 …校長はね、ハマーに乗ってます。ハマーというのは米軍の軍用車を民間用にリフォームしたお車なんですって。学校の長が軍用車に乗ってるってどうなんでしょうね…と思ってる方もいらつしやるはずよ。

蓮華 軍用車に乗ってる方は、好戦的な人間に違いない。無慈悲で、血を好む。

堂上 そうよ…それでもね、

蓮華 うん…。

堂上 女には、男なんかにも考えも及ばない深いはかりごとで遠慮りと言いた深謀遠慮がある。この一年半、青春真っ最中の大事な一年半を奪ったこの学校を、わたくしは絶対許さない。

蓮華 私も、私もよ。

堂上 大きな疑問を抱えたまま卒業してこの三年間を無かった事にするなんてウチには耐えられない。

反町 私だってそう。私たちの三年間は、ただただ壁に向けてため息を吐くだけじゃないのよ。

堂上 言つとくけどウチは男子なんか居ても居てもどっちだっていいんだよ！

蓮華 どちらも居るよ！それどちらも居る！

反町 私だって！だって男子なんか居たら面倒くせーもん！女子の中には鎖骨フェチとか多いからさ、やれあの鎖骨だこの鎖骨だつていちいち話聞いてあげなきゃいけない。

蓮華 それはあなたの話じゃなくて？

反町 違つもんね！私はどつちかって言う鎖骨から首筋に至るそのラインだもんね。

蓮華 男は首にセクシーさが出るもんね！

堂上 二の腕とかさ、Tシャツで抱きしめられてこらんよ…、もう気持ち悪いよ！汗臭くて、もつきつとびつくりするほど臭いんだ！男子って奴は。

反町 あの匂い嗅ぐと安心するとか言う女子居るよね。

堂上 居る居る、そういう奴に限つていたい経験も無いくせに知つたかぶりて言うんだよ、お前は犬かつて。

蓮華 犬はどうしてあんなに匂いを嗅ぐか知ってる？

堂上 え、知らない、なんで。

蓮華 人間は目で見て表情を読み取るけど犬は匂いから相手の気持ちを探るのよ。

堂上 へー、なるほどね。

反町 ねえ犬の話どうでも良くない？

蓮華 そうだよ、どうでもいいよ。男子くらいどうでもいいよ。

堂上 どのくらいどうでもいいかって事の例え話してただよ。良い例えだったよ。

蓮華 ありがとうね！

堂上 ごきげんよう。

反町 このように私はけつして男子の事が気になってるんじゃない！

堂上 この学校の体質の事を言っているのよ。この学校を変えていかなくちやならない、それがウチら二

年の役目よ。

蓮華 マドンナ旋風ね！

反町 古っ。

堂上 その為にはあなたのような立派な風紀委員が必要なの。

蓮華 来年の、新一年の為に私達が頑張らなきゃ。

反町 うん！

おぼさん しょうがないですね。

先生 え？

おぼさん 私、欄橋です。欄橋ゆうぞう。

皆 おおー！

先生 いやいや、この人は納品業者さんですからね。

不破 先生！私達の「シ」になつて下さい。

皆 お願いします！

先生 あのね皆さん、歌いたいならこんなところじゃなくて、ちゃんと音楽室を借りなさいな。壁の向こ

うに歌つても男子生徒なんて居ませんから。こんなものは…所詮校長の作戦なんですよ。必要以上に高

い壁を作つておいて思春期の娘の心を惑わせる。それだけの事なんです。結局怒られるだけですからや

めときなさい。

皆 頭を下げたま。

おぼさん やつてあげたらどうですか？

先生 え？

おぼさん せつかくこんなにあんな気になってるんですから、先生が助けてあげないでどうするんですか？

先生 おぼさん！

おぼさん ここまでやる気になってる彼女達を、今まで見たことありますか？

先生 だって、訳わかんないし…

おぼさん 先生、世の中訳のわかる事ばかりだったら、そんな世界は面白いですか？訳がわからない事が

あるから、人は成長するんじゃないんですか？可能性は、訳の分からないところから始まるんです。

先生 …。

おぼさん 彼女達のやろうとしている事を、わからないというだけで否定するのは止めて下さい。

堂上 納品業者…。

皆 ロケちに「納品業者」とつおやく。

先生 …なんでそんなに向こう側に行つちやったんですか？

おぼさん 彼女達は気づいていないんです、今の彼女達の衝動こそが、青春だと言う事を。

生徒達 納品業者ー！

おぼさん 私からもお願いします、彼女達の助けになつてあげて下さい。

堂上 お願いします、先生！合唱部に入つてちょ。

生徒達 お願いします！

堂上 お願いします！

先生 …もお、わかりましたよ。

生徒達 いえー！

先生 その代わりに、私「下」がやりたい。

不破 「下」はダメですよ、もう堂上さんが居らつしやるから。

先生 私は「下」以外はやらない。「下」はやっぱり、かつこいから。

不破 先生いい？音に優秀はないんですよ？

先生 何度も言うけど私は先生なの。先生が「下」じゃないとかつこつかないでしょ。

不破 子供だわよね。

蓮華 ひどいよそんな、後から入つて来て勝手に「下」の音をやらして欲しいだなんて、

反町 それはちよつと横暴ですよ先生。

不破 堂上さんも何か言いなさいよ。

堂上 じゃあ私「ミ」やります。

不破 じゃあ決まりだ。先生は「下」ね。

先生 しょうがないなあ。

反町 ちよつと待って、でも「ミ」は水野さんが居るわ。
蓮華 じゃあ私が、「ソ」をやる。

堂上 でも「ソ」は、反町さんでしょ。

反町 じゃあ私、「ファ」をやりませう。

不破 じゃあ私が「シ」ね。

堂上 何このスムーズな展開。まるで初めからその音で決まっていたみたいだなスムーズさね。

おぼさん ちよつとちよつと君達、「ド」「柴」「レ」「水野」「ミ」「ドノウエ」「ファ」「反町」「ソ」「レンジ」「シ」不
破 ややこしいわ。

反町 でもこれはわたくしたちがやりたい音を選んだ結果なんです。

堂上 ウチも最初「ド」がイイって言ったんですよ。「ド」はやつぱり最初の音だし、リーダーみたいだから、
そしたら、

不破 「ド」が最初なんて誰が言ったのかしら？「ド」の前には「シ」があるのよ。

反町 「シ」の前には「ソ」、

蓮華 「ソ」の前には「ソ」、

不破 「ソ」の前には「ファ」、

堂上 つて皆さんが言うから私は「ミ」にしたんです。

反町 私はドノウエさんは「ド」の上なんだから、「レ」がいいんじゃないかと言ったんですけどね。

おぼさん もうええわ。じゃあ行きますよ。

おぼさん、楽器を取り出し、スタンバイ。

堂上 ほら、水野さん、何やってるの。

他 水野さん。

水野 …。

不破 もうすぐ日が暮れる。この壁の向こうに男子が居るとしたら、きつと下校の時間ね。

先生 私にやれるだけの事はやってみますよ、やれるだけの事しかやらないけど。

水野 …もう誰に聞かれたってかまやしない。

水野、席についた。

おぼさん いち、にの、さん、はい！

皆 一人一音で「クシコスポスト」を歌いだした。音をはるか遠く飛ばす様に。

クシコスポスト ヘルマン・ネッケ

いつの間にかサイレンが鳴り響いている。
夕焼けが目に沁みる。

この戯曲の著作権は、作者である平塚直隆にのみ帰属するものです。
上演許可あるいはその他のお問い合わせは、作者の所属する「オイスターズ」どうぞ。

■ オイスターズ ■

ホームページ

<https://oysters.official.jp>

メールアドレス

theatrical_unit_oysters@yahoo.co.jp